

WasadaHill

須崎総合高校部活動情報紙

Vol.1

【令和3年度高知県高等学校体育大会 ベスト8】 男子バスケットボール部

「絶体絶命のピンチから
チーム一丸でつかみ取った
ベスト8！」



5月22日～24日の日程で行われた高知県高等学校体育大会において本校バスケットボール部がベスト8に入る快挙を見せてくれた。監督、キャプテン、副キャプテンにベスト8を決めた試合「宿毛工業戦」を振り返って当時の心境や、後輩へ託す思いを語ってもらった。

「名門を打ち破り、迎えた大一番！」

ベスト8を決める宿毛工業戦！前日の高知工業戦で、23得点の河原巧味(3E)と22得点の中村歩(3E)の両エースを、ゾーンオフェンスで完全に止められ苦しい試合となった。3Q終わって47-45と2点リードで終わるも、中

村が5ファールで出場停止。宿毛工業ベースで試合が進んだ。4Qに入り残り時間8分47秒で、河原も5ファールとなり絶体絶命のピンチになるが、そこから須崎総合の怒涛の攻めが始まる。福井瑠唯(3S)のゴール下シュートや大崎空(3-3)のレイアップシュートを皮切りに、今大会不発のシューター(山中冬輝(2R)の2連続3Pシュートで一気に流れを呼び込むと、高橋力也(3E)の堅いディフェンスと片岡育久(3E)の懸命なプレイで相手の勢いを奪い、75-59で宿毛工業に勝利した。

前日の高知工業戦同様、試合に出られない選手も腐らずベンチで声を出し、絶体絶命のピンチからチーム一丸でつかみ取ったベスト8！チームの成長を感じたベストゲームであった！

談：河原監督

【試合結果】	
須崎総合	81 - 65 高知工業
須崎総合	75 - 59 宿毛工業
須崎総合	49 - 84 高知商業



「この気持ちをみんなで味わえてよかった。」



全ての人に「感謝、しています。」

【男子バスケットボール部キャプテン】

河原 巧味 (3E) ガードフォワード

——いつもチームが意識しているスローガンは？
「One for All. All for One.」です。
——今回の試合でスローガンを感じたタイミングは？
やっぱり試合に勝った瞬間です。5ファールで退場してしまいキャプテンとしてはすごく悔いが残った試合でした。でもそのあとコートに残った仲間がすごくよくやってくれて・・・みんなに助けられたっていう感じがすごくしました。みんなでつかんだ勝利ですよ。これが一番うれしいです。
——県体を終えての感想は？
「感謝、です。チームの仲間は一人一人の個性を活かしてとてもいい試合ができました。一緒にバスケットができてよかった。あとは保護者の皆さんです。コロナ禍でいろんなことに迷惑をかけたと思います。今回の試合もそうだけど、感染症対策で会場に入れないのに送迎してくれたり、終わるのを待っていてくれたり、本当にありがとうございました。」

「スリーポイントが入れば流れが変わると思って必死で打った。どうしても勝たなかった。」
【男子バスケットボール部】

山中 冬樹 (2R)

——試合を振り返ってみてどう？
3年生が次々ファールアウトしてしまい焦りました。でもどうしても勝たなかったんで流れを変えるために必死にスリーポイントを打ちました。ベスト4に行って3年生と四国大会に出たかったの。
——ファールアウトしたキャプテン、副キャプテンもコートに残った仲間を安心して見られたと言っています。うれいすね。僕も期待に応えようと頑張りました。
——県体が終わり、新体制の須崎総合男子バスケットボール部になるけど、どんなチームになる？
この試合でもそうでしたが、声が出るチームにしたいです。言われてやるのではなく、自分たちで声を出し合い試合や練習での反省点を自分たちで話し合えるようなチームにしたいです。
——スバリ目標は？
まずは3年生の力を借りずにベスト8！それから四国を目指したいです。



「みんながいたからこそ、勝てた試合。」

【男子バスケットボール部副キャプテン】

中村 歩 (3E) パワーフォワード

——監督、キャプテン、副キャプテンがそろってチームワークを意識した回答をしますね。
信頼関係はほんとに強いと思います。
——どういところからそう思う？
相手側の作戦にはまったところもあるんですけど僕とキャプテンがファールアウトになってしまった。正直、試合展開が競ってる状況だったんで少し焦りましたが、不思議と安心して試合を見ることができました。日々の練習や練習試合でこそぞうとうきにもいつも助けてくれた仲間もいましたし、後輩たちも信頼していました。
——県体を終えての感想は？
正直なところ悔しかったです。僕たちの目標はベスト4に入ることでしたから、でも全力を出し切ったので後悔はありません。後輩たちにはこの成績を超えるよう頑張ってもらいたいです。

「One for All. All for One.」

今回取材して感じたのは、男子バスケットボール部の強い「信頼関係」である。キャプテンを中心として「One for All. All for One.」のスローガンのもと一致団結したチームであると感じた。今大会では残念ながらベスト8で姿を消したが、3年生には人生の糧となる経験になっただろう。また、その精神は次の世代へ確実に引き継がれているように感じた。ひたすらチームメイトを信頼できる須崎総合男子バスケットボール部の次の物語は始まっている。

～編集後書～

一昨年度の末から新型コロナウイルス流行による部活動をはじめとする学校活動の制限が続いている中、感染症に負けずに自分たちの目標に向け確実に努力をしている生徒たちが須崎総合にはいます。本紙はそういったひた向きに部活動に励み、自己研鑽に励むチームや個人を紹介します。本紙で紹介する生徒のようになれにも負けないと思えるものを須崎総合で作ってください。高校生活をどのように過ごすかは皆さん次第です。

